



総額264,475米ドルの2件の 供与契約書に日本が署名



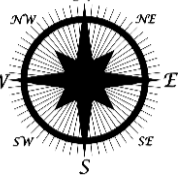
2026年3月24日、日本大使館はエルサルバドルで、プロジェクト実施のための2つの重要な資金協力契約に署名した。これらのプロジェクトは、地域社会の安全保障プロジェクトのための無償資金援助プログラム（APCS）の下で実施される。

ソンソナテ中央市ロマデルムエルト村水道施設整備計画では、1,678人の住民とひとつの学校が直接恩恵を受ける。近隣の川や谷まで何時間もかけて徒歩で水を運ぶ必要を無くすことで、彼らの生活に質の向上をもたらす。

エルサルバドル救助隊3支部救急搬送車両整備計画では、直接的に200,000人の住民に恩恵をもたらす。グアサバ、サン・ミゲル・テペソントス、ファユアの地域住民に緊急避難時の対応や緊急搬送を提供する。



エルサルバドル救助隊3支部
救急搬送車両整備計画



ソンソナテ中央市ロマデルムエルト村
水道施設整備計画



❖ ロマデルムエルト村水管理協会とソンソナテ中央市との署名



❖ エルサルバドル救助隊との署名

署名式には、佐野豪俊駐エルサルバドル日本国大使が出席し、ソンソナテ中央市市長、ロマデルムエルト村水管理協会代表、エルサルバドル救助隊長が同席した。

参加者全員の貢献により、総額\$472,808.79米ドルが用意され、そのうち264,475米ドルが日本による供与。



駐エルサルバドル日本国大使
佐野豪俊

1990年以来、「誰一人取り残さない」というテーマのもと、日本は草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、主に教育、医療、飲料水分野でエルサルバドル人の生活の質の向上のために支援してきた。これまでに457件のプロジェクトが実施され、その総額は4,000万ドルを超える。しかし、最も重要なのは日本の協力自体ではなく、自立的発展の精神である。

一方、双方の受益者の自立的発展の精神を見出せる。ロマデルムエルト村水管理協会は、この人間の生命に不可欠な飲料水プロジェクトの実施に向けて資金調達と協力を得るために多くの努力をしてきた。また、エルサルバドル救助隊のチームは、長年使用した車両で多数のエルサルバドル人の命を救ってきた。さらに、ソンソナテ中央市市長のプロジェクト関与に賛辞を送る。日本の協力がエルサルバドル地域社会の発展に貢献することを心から願う。

長い間、家族は遠方から水を汲む必要に悩まされてきた。子どもたちでさえ、登校前に長距離を歩いて、水を運ばなければならない。人々の生活に与える影響や生活の質の向上と同様に、このような事業の経済的価値は計り知れない。

我々はエルサルバドル人として、特にソンソナテ出身者として、日本政府とその国民に深く感謝している。これらのプロジェクトにより、まさに我々の生活の質を向上させるからである。



ソンソナテ中央市市長
ホセ・ロベルト・アキノ・ルイス



ロマデルムエルト村
水管理協会代表
セシリオ・ヒメネス・ピネダ

本プロジェクトは単にインフラの改善を意味するだけでなく、我々の家族にとっての命、健康、福祉をも意味する。飲料水へのアクセスにより、我々の生活環境が変化し尊厳を高め、コミュニティの発展に向けた新たな機会が生まれる。

本協力に関する連帯の取組を我々は心から再認識する。日本の支援は、共同作業の明確な証である。本当に必要としている人々のために、現実的で持続可能な変化を生み出すことが可能である。

エルサルバドル救助隊役員会を代表し、この「救急搬送車両整備計画」と呼ばれる事業を担う者として、我々に提供された多大な支援に心から感謝申し上げる。このプロジェクトはエルサルバドル人と我々救助隊隊員に利益をもたらす、より良い病院前診療を提供し人々が当然受けるに値する尊厳ある対応を実現するものである。



エルサルバドル救助隊長
ルビア・グアダルーペ・パラシオス



在エルサルバドル日本国大使館が「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を通じて実施している案件は、「人間の安全保障」の概念である「人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促す考え方」のもと、エルサルバドル国民、特に国内で最も脆弱な地域の生活環境の質を改善しようと試みるものである。